

シックハウス 症候群とは

シックハウス症候群の要因として

1. 建築等での化学物質の多用
2. 住宅の高気密化
3. 昼間の不在など閉めきったままが多い暮らし
があげられます。

近年、住宅には建物の耐久性を高めたり、住まいを快適にするために防シロアリ剤、防カビ剤、合板や壁紙の接着剤など、化学物質がたくさん使われています。また高気密化することで、新築や改築後の住宅などで、化学物質による室内空気汚染などがあり、居住者に様々な体調不良が生じていることが数多く報告されています。それらの症状は多様で、症状発生の仕組みをはじめ、未解明の部分も多くあります。このような化学物質過敏症を「シックハウス症候群」と呼んでいます。

シックハウス症候群のよくある症状と治療

目やのどの痛み、呼吸困難、喘息、頭痛、めまい、皮膚への刺激や皮膚炎の悪化、吐き気、気分が悪いなどの症状が現われることがあります。

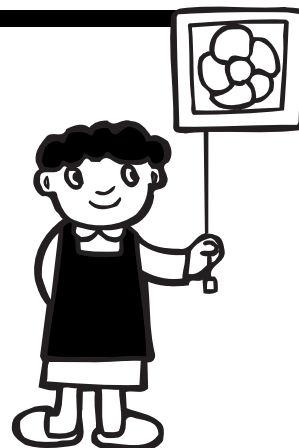
治療の専門医はほとんどいないのが現状です。体調不良を感じたら、不調を感じる部位の専門医への受診をお勧めします。内臓疾患や感染症なども視野に入れて、対症療法を行います。



シックハウス症候群の対策

シックハウス症候群が一般に知られるようになってから、ホルムアルデヒドなど有害物質の少ない建材も増えてきました。また、ホルムアルデヒドや各種悪臭物質を吸着する塗料や、ホルムアルデヒドを吸着して炭酸ガスと水に分解するボードなど、有害物質を吸着・分解する建材も開発されています。シックハウス症候群を起こす物質はアルコールのように揮発する性質をもつため、部屋を高温にしてこれらの物質を強制的に揮発させる「ベイク・アウト」と呼ばれる方法も行われています。

いずれにしても、できるだけこまめに換気することが大切です。



より安全な室内環境を目指して

1. 新たに増やさないために

使わない(安易な使用は避ける)

持ち込まない(新たな発生源を増やさない、持ち込まない)

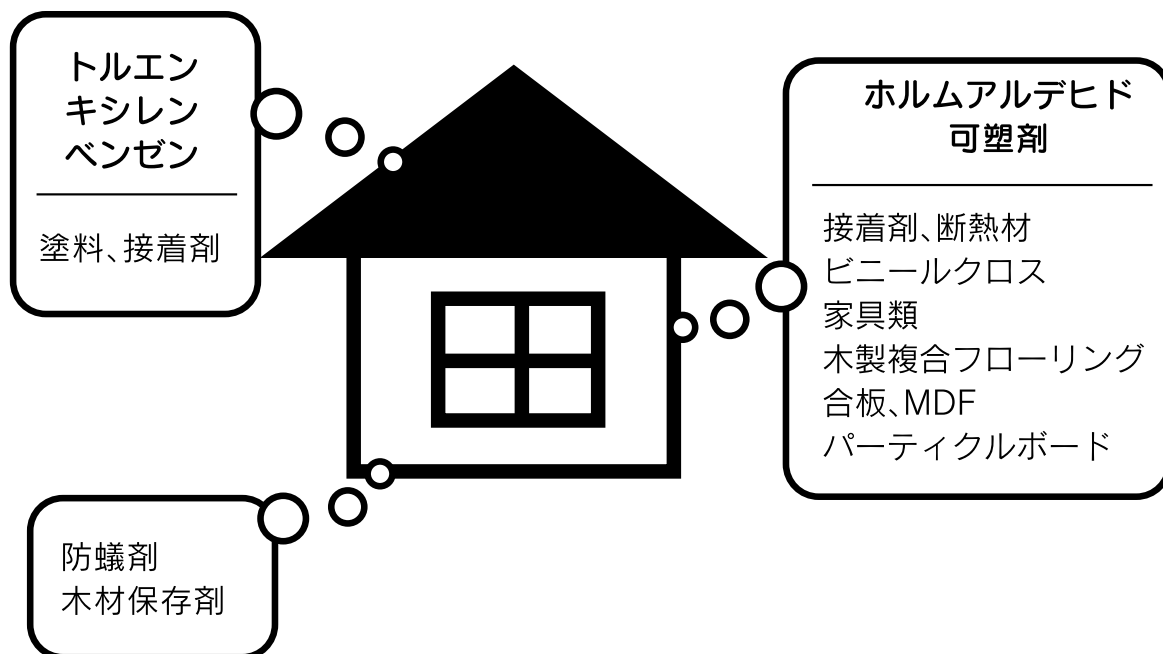
2. 今よりも減らすために

追い出す(部屋の用途や利用状況に応じて換気する)

取り替える(揮発しない、または揮発の少ないものに取り替える)

なくす(発生源を除去するための検討)

シックハウス症候の原因となる主な化学物質



- ◆ホルムアルデヒド(HCHO) —— (発生源)合板などの建材や壁紙用接着剤、塗料、断熱剤
- ◆トルエン(C₆H₆CH₃) —— (発生源)接着剤や塗料の溶剤
- ◆キシレン —— (発生源)接着剤や塗料の溶剤
- ◆エチルベンゼン —— (発生源)接着剤や塗料の溶剤
- ◆アセトアルデヒド(CH₃CHO) —— (発生源)接着剤や防腐剤。喫煙によっても発生する。
- ◆クロルビリホス —— (発生源)有機リン系殺虫剤(害虫駆除)
- ◆ダイアジノン —— (発生源)有機リン系殺虫剤(害虫駆除)